

趣旨説明

水辺の自然再生共同シンポジウム実行委員長
高橋 清孝

身近な里山のため池や里地の小川には貴重な動物が驚くほどたくさん生息しています。水中では魚、貝、エビ・カニ、水生昆虫など、岸部ではカエルやサンショウウオそしてこれらを餌とする鳥や哺乳類など、訪れるたびに新たな出会いに感動することができます。先人たちは自然の恵みを享受し活用しながら、長期にわたり貴重な自然を守り続けてきました。しかし、ここでも、豊かな自然はさまざまな原因により急激に失われつつあります。私たちは、先人たちが残した貴重な自然を守るため、科学的根拠に基づいた復元と保全策を検討し、市民と農民の連携による地域ぐるみの取り組みを実践してきました。

今回は豊かな自然の活用と緊急課題である侵略的外来種の対策を中心課題に設定し最新知見の紹介と議論を行うことになりました。

第1部では、里山・里地の貴重な自然をを次世代へ引き継ぐため、内外で活動している団体や研究者に最新知見や取り組みの実態を紹介します。

第2部では自然再生と取り組んでいる全国の活動をポスターなどで紹介します。

第3部では豊かな自然を守るために最重要課題となっている外来生物対策の新技术や取組を報告します。特にブラックバス駆除と合わせて実施が必要とされるザリガニ類の対策について最新の知見を報告します。

さらに総合討論では、問題解決の方策や活動の方向性などについて多様な団体から広範囲に意見を求めたいと考えます。